

みなとびおファンクラブの歩み

企画普及課
渡辺 絵奈

みなとびおファンクラブについて

新潟市歴史博物館みなとびおが開館した平成十六年三月から三年半後、開館四年目の平成十九年十月一日にみなとびおファンクラブは始動しました。設置に当たっては他の博物館の友の会等にアンケートを取りながら、当館ではどのような形が望ましいのかを考えました。ファンクラブの目的には以下を挙げました。

- 一、情報を提供し、リピーターを増やす。
- 二、ボランティアとは違った形でみなとびおを応援して下さる方を組織化する。

他の館のように「観覧料無料」のような特典はありませんが、年会費六〇〇円という比較的安い会費で、みなとびおのファンを増やしていきたいということになりました。また、十月更新、四月以降の入会承諾のシステムを採用しました。

- 常設展・企画展観覧料二割引
 - 博物館ニュースやチラシ等、館の情報を定期的に送付
 - 企画展解説会やまちあるき等、会員向け行事の開催
- 館の情報は、ファンクラブ通信というお知らせ(年九回程度)と、その時期開催の企画展や講座のチラシ、帆橋成林

●館長バスツアー

平成二十年五月には館長バスツアーを開催しました。それ以前にも館長バスツアーを行っていましたが、この年からファンクラブ会員限定として形を変えての開催となりました。館長バスツアーは例年五〜六月頃に行っており、ファンクラブの行事の中でも人気のイベントです。現在までに五回開催しました。一回目のバスツアーは甘粕館長(当時)と南魚沼を訪ねました。この翌年に放映された大河ドラマ「天地人」の放送がちょうど決まったときでした。



H24 バスツアー-青海神社



H21 バスツアー-古津八幡山

(本誌、年三回)等を送付しています。会員向け行事は、まちあるき、館長バスツアー、講演会、企画展示解説会を行っています。

●会員向け行事

●まちあるき

みなとびおファンクラブの記念すべき一回目の行事は、始動から半年ほど後の平成二十年三月に開催したまちあるきです。「新潟まちあるき」どこにでも歴史はある」というタイトルのもと、新潟市中央区の関屋地区を歩きました。以降、春と秋に伊東副館長の案内で巡っています。

- ◆第一回 平成二十年春 「関屋まちあるき」 菅原神社・戊辰公園・金鉢山など
- ◆第二回 平成二十年秋 「新川を歩く I」 内野大神宮・西川水路橋・新川右岸排水機場など
- ◆第三回 平成二十一年春 「大畑かいわい」 カトリック教会・砂丘館・あさひまち展示館など
- ◆第四回 平成二十一年秋 女池(悪天候のため中止)
- ◆第五回 平成二十二年春 「八十年前の地図を片手に女池の村道を歩く」 男池跡・女池神明宮・逆タケなど
- ◆第六回 平成二十二年秋 「島から砂

●甘粕館長と行くバスツアー

- ◆平成二十年 「直江兼続ゆかりの地―南魚沼の史跡を訪ねる」 坂戸城・雲洞庵・飯綱山古墳群など
- ◆平成二十一年 「小須戸の町並み散策と古津八幡山遺跡見学」 小須戸町並・県埋蔵文化財センター・古津八幡山遺跡など
- 小林館長と行くバスツアー
- ◆平成二十二年 「新潟市近郊と五頭山麓古代・中世の旅」(笹神・出湯方面) 巨飯野神社・笹神地区郷土資料館(阿賀野市)・市島邸など
- ◆平成二十三年 「寺泊・和島方面 越後古代史研究の軌跡をたどる旅」(白山媛神社・歴史民俗資料館(長岡市和島)・隆泉寺など)
- ◆平成二十四年 「古代蒲原郡の遺称地を巡る」(新津・加茂・三条方面) 古津八幡山弥生の丘展示館・青海神社・藤ノ木権現など

館長バスツアーでは館長と担当芸芸員が、行先から見学地や昼食会場、どのようなルートで回るかなど全ての行程を考えます。前もって現地の下見をし、当日に備えています。そのおかげで当日は効率よく見学ができ、充実したバスツアーとなっています。

●講演会

ファンクラブ二年目にはファンクラブ会員限定講演会を始めました。講演会は例年二月という寒い時期の開催ですが、毎回たくさんの会員の方に参加いた



H22 秋下町まちあるき

- ◆丘に登る―広がるシモ― 湊稲荷神社・栄小学校・日和山共同墓地など
 - ◆第七回 平成二十三年春 「梨島―信濃川と他門川に囲まれた島―」 木揚場教会・鏡橋碑・大円寺公園など
 - ◆第八回 平成二十三年秋 「流作場をめぐる I(南半分)―古い地図を見ながら歩いて昔の情景を偲ぶ―」 弁天公園・下所島ポンプ場・水島稲荷など
 - ◆第九回 平成二十四年春 「流作場をめぐる II(北半分)―古い地図を見ながら歩いて昔の情景を偲ぶ―」 旧笹口踏切跡・古信濃川排水機場・八木家別邸跡など
 - ◆第十回 平成二十四年秋 「山の下―港と工場の町の面影―」 日東硫曹跡地・大山台・臨港大踏切跡など
- まちあるきでは、普段は見過ごしてし



H25 館長講演会

だいています。現在までの開催五回は館長が講演しています。

- ◆平成二十一年 甘粕館長 「古墳に学ぶ―私の考古学人生―」
- ◆平成二十二年 甘粕館長 「ヤマト政権が開く古墳の道―北陸・越後から東北まで―」
- ◆平成二十三年 小林館長 「淳足柵を探して」
- ◆平成二十四年 小林館長 「新潟古代史断章―高志国から越後国―」
- ◆平成二十五年 小林館長 「淳足柵探求の新たな展開」

甘粕前館長も小林現館長も、長年の研究に基づく内容の話でした。大変興味深く、参加者も熱心に耳を傾けていました。

みなとびおファンクラブのこれから

現在ファンクラブは六年目に突入しました。これまでの会員数は以下の通りです。

- ・一年目 一九四名
- ・二年目 一六七名
- ・三年目 一七五名
- ・四年目 一四八名
- ・五年目 一五五名
- ・六年目 一四二名(平成二十五年三月現在)

更新と新規申込みとを併せ、毎回一五〇名前後の方に会員となつていただいています。大幅に減ることも無く年を重ねられ、会員の皆様には大変感謝しております。一年分の会費がそう高くない価格であること、イベントも無料、もしくは実費程度での開催ということが継続・入会いただける要素でもあるかとも思っています。

しかしながら、更新時に継続手続きが無く退会される方も毎回二〇〜三〇名程いらつしやいます。現在行っているまちあるき・バスツアー・講演会・展示解説会は概ね好評を得ているかと思っておりますが、さらに魅力的な内容で続けていくことが必要となります。毎回継続してもらえらるような、そして、新しい方にも興味を持っていただけるような情報発信も心掛けていきたいと思ひます。

来年の三月でみなとびおも十周年となります。より地域に根差した博物館となるよう頑張っていきたいと思ひます。今回、みなとびおを応援したい!と思つてくださった方がいらつしやいましたら、みなとびおファンクラブへどうぞご入会ください。

(わたなべ えな)



H23 くらし展解説会

●展示解説会
第一回まちあるき開催に続いての行事は、企画展「酒蔵」展の解説会でした。ファンクラブ会員向け展示解説会は、企画展開幕日に通常の解説会に先駆けて行っています。むかしのくらし展では通常は解説会を設けていませんが、ファンクラブ会員向けとして特別に開催しています。むかしのくらし展・解説会ではまちあるき同様に、参加者からも色々な思い出話などを聞かせてもらっています。